

【参考資料】船橋市の商工業の現状のエビデンス

(共通) 人口が増加（消費マーケットが拡大）

船橋市の人口は、全体では増加しているが、町丁別にみると、北部を中心に減少している地域が多い。

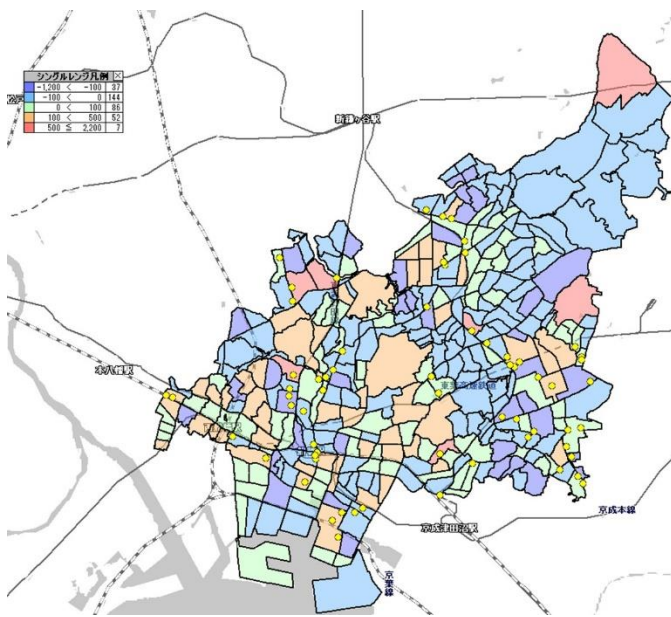
図表 1 船橋市の人口の推移 (単位: 人)

平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
550,074	569,835	609,040	622,890	642,907	650,768

(注) 1. 出所: 船橋市「住民基本台帳人口」

2. 平成12年～令和2年は10月1日時点、令和7年は4月1日時点。

図表 2 船橋市の人口増減数(町丁別) ※青色は減少



(共通) 多様な産業構造（商業・工業・農水産業）

船橋市の産業は1次産業（農業・漁業）から3次産業までバランスよく立地しており、各産業の相乗効果の発揮が船橋市らしい産業振興であり、成否の鍵を握っている。

図表 3 産業大分類別の売上（収入）金額および構成比

(単位: 億円、%)

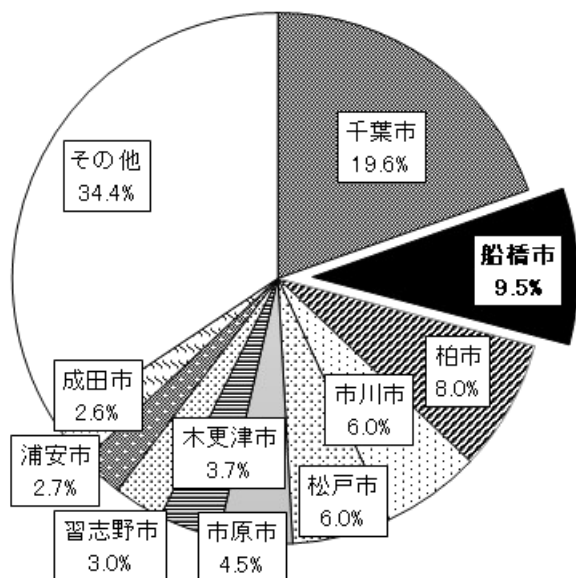
		農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業
千葉県	(金額)	1,690	378	30,595	39,996	2,673	5,563	14,501	111,684	6,084
	(構成比)	0.6	0.1	10.3	13.4	0.9	1.9	4.9	37.4	2.0
船橋市	(金額)	79	-	3,691	4,882	36	200	844	7,487	66
	(構成比)	0.4	-	17.2	22.7	0.2	0.9	3.9	34.8	0.3

		不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）
千葉県	(金額)	12,402	6,379	4,702	9,267	4,816	36,924	1,700	8,894
	(構成比)	4.2	2.1	1.6	3.1	1.6	12.4	0.6	3.0
船橋市	(金額)	1,027	265	280	514	225	1,277	4	628
	(構成比)	4.8	1.2	1.3	2.4	1.0	5.9	0.0	2.9

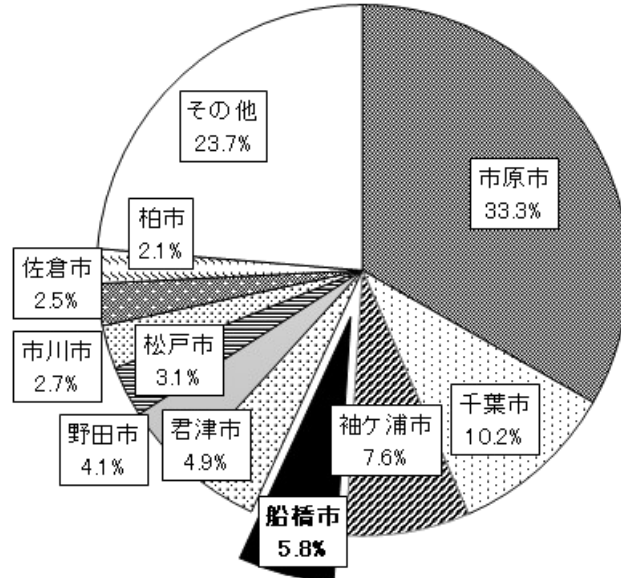
(共通) 県内有数の商工業の生産力 (商業2位、工業4位)

小売業の年間商品販売額の県内シェアは、千葉市に次ぐ第2位、製造業の製造品出荷額等の県内シェアは、市原市、千葉市、袖ケ浦市に次ぐ4位となっている。上位の市原市と袖ケ浦市の基幹産業は石油化学コンビナートであるが、船橋市は千葉市と同様に多種多様な産業が立地している。

図表 4 小売業の年間商品販売額の県内シェア



図表 5 製造業の製造品出荷額等の県内シェア



(共通) 商工業ともに供給力 (事業所数・従業者数) が低下

- ・ 船橋市の製造業の平成28年から令和3年にかけての減少率は、事業所数が▲15.9%、従業者数が▲7.6%、小売業の同減少率は、事業所数が▲12.4%、従業者数が▲3.0%となっている。
- ・ 製造業の減少率が非製造業を上回っていることから、イノベーションの促進など製造業の競争力の強化が重要な課題となっている。

図表 6 製造業・非製造業の事業所数・従業者数の推移

【製造業】		単位 (事業所、%)			
		平成28年	令和3年	増減数 (H28年比)	増減率 (H28年比)
事業所数	千葉県	5,551	4,748	▲ 803	▲ 14.5
	船橋市	309	260	▲ 49	▲ 15.9
従業者数	千葉県	205,648	206,017	369	0.2
	船橋市	16,406	15,157	▲ 1,249	▲ 7.6

【非製造業】		単位 (事業所、%)			
		平成28年	令和3年	増減数 (H28年比)	増減率 (H28年比)
事業所数	千葉県	36,296	32,259	▲ 4,037	▲ 11.1
	船橋市	2,991	2,621	▲ 370	▲ 12.4
従業者数	千葉県	347,256	350,532	3,276	0.9
	船橋市	32,611	31,641	▲ 970	▲ 3.0

(共通) 人手不足感の強まり (都内や周辺地域との競合激化)

市内企業の人手不足感は、前回調査（2014年）比大幅に強まっている。船橋市の「労働者確保の容易性」に関する評価は、特に製造業で「不満」とする向きが多い。その背景には、船橋市の昼夜間人口比率の低さからみる限り、市内の労働力が東京をはじめとした市外に流出していることがある（雇用マーケットにおける競合が激しい）。雇用の維持・確保に向けて、市内企業は働き方改革の取組みを強化している。

図表 7 雇用環境（前回調査との比較）【製造業】

(単位: %)

		過剰(過剰+やや過剰)			適正			不足(やや不足+不足)		
		前回調査 (2014年)	今回調査 (2024年)	前回 調査比 (ポイント)	前回調査 (2014年)	今回調査 (2024年)	前回 調査比 (ポイント)	前回調査 (2014年)	今回調査 (2024年)	前回 調査比 (ポイント)
全体		5.1	1.3	▲ 3.8	59.1	36.8	▲ 22.3	35.7	61.8	26.1
年 齢 別	10～20歳代	0.0	0.0	0.0	33.3	27.8	▲ 5.5	66.7	72.1	5.4
	30歳代	1.0	1.3	0.3	42.7	34.2	▲ 8.5	56.3	64.5	8.2
	40歳代	6.1	2.4	▲ 3.7	61.6	65.9	4.3	32.4	31.7	▲ 0.7
	50歳代	12.6	25.1	12.5	73.7	63.8	▲ 9.9	13.7	11.3	▲ 2.4
	60歳代以上	26.8	32.6	5.8	65.3	62.8	▲ 2.5	8.0	4.7	▲ 3.3
部 門 別	一般事務部門	7.2	2.6	▲ 4.6	76.6	73.1	▲ 3.5	16.2	24.3	8.1
	管理部門	4.5	5.2	0.7	75.5	72.7	▲ 2.8	20.0	22.1	2.1
	営業・販売部門	2.7	1.4	▲ 1.3	66.7	51.4	▲ 15.3	30.6	47.3	16.7
	生産部門	4.0	2.2	▲ 1.8	46.8	42.7	▲ 4.1	49.2	55.1	5.9
	技術(開発)部門	0.9	2.7	1.8	52.3	41.3	▲ 11.0	46.8	56.0	9.2

図表 8 雇用環境（前回調査との比較）【非製造業】

		過剰(過剰+やや過剰)			適正			不足(やや不足+不足)		
		前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回 調査比 (ポイント)	前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回 調査比 (ポイント)	前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回 調査比 (ポイント)
全体		4.7	2.2	▲ 2.5	55.1	41.8	▲ 13.3	40.2	56.0	15.8
年 齢 別	10～20歳代	2.0	1.2	▲ 0.8	39.8	31.7	▲ 8.1	58.3	67.0	8.7
	30歳代	2.1	0.3	▲ 1.8	44.6	36.5	▲ 8.1	53.3	63.2	9.9
	40歳代	4.8	4.1	▲ 0.7	66.2	54.4	▲ 11.8	29.1	41.5	12.4
	50歳代	9.9	9.3	▲ 0.6	76.6	68.4	▲ 8.2	13.6	22.3	8.7
	60歳代以上	14.7	16.2	1.5	76.2	69.7	▲ 6.5	9.1	14.0	4.9
部 門 別	一般事務部門	3.2	3.6	0.4	81.1	70.7	▲ 10.4	15.7	25.7	10.0
	管理部門	2.1	1.7	▲ 0.4	81.4	70.0	▲ 11.4	16.5	28.3	11.8
	営業・販売部門	2.4	1.8	▲ 0.6	60.5	56.2	▲ 4.3	37.1	42.0	4.9
	生産部門	1.8	1.3	▲ 0.5	69.0	62.5	▲ 6.5	29.2	36.2	7.0
	技術・開発部門	2.0	1.1	▲ 0.9	65.6	59.6	▲ 6.0	32.4	39.2	6.8

(注) 2024年の数値は、2014年調査の対象業種について集計したもの。

図表 9 立地環境に関する評価（労働者確保の容易性）

(単位: %)

	回答数 (件)	満足 (満足+ 概ね)	満足	概ね満足	どちらとも いえない	不満 (不満+ 概ね)	やや不満	不満
製造業	118	21.2	3.4	17.8	44.1	34.7	25.4	9.3
非製造業	1,171	23.3	6.1	17.2	55.4	21.3	13.8	7.5

図表 10 人口および昼夜間人口比率（同規模市との比較）

指 標 名	年 次	単 位	船橋市の 水準値	同規模市 の平均値	うち中核市 の平均値
人口	令和6年	人	648,331	548,555	485,559
人口増減率	R6/H31	%	1.37	▲ 1.40	▲ 1.10
人口密度	令和6年	人/Km ²	7,572	2,857	3,470
昼夜間人口比率	令和2年	%	84.4	99.1	98.5
人口1人当たり所得	令和5年度	千円	1,999	1,728	1,756

図表 11 働き方改革やワーク・ライフ・バランスの取組状況（製造業）

（単位：％）

	前回調査 (2020年)	今回調査 (2024年)	前回調査比 (ポイント)
すでに取り組んでいる	30.1	49.6	19.5
現在は取り組んでいないが、 今後取組を予定・検討している	26.5	15.0	▲ 11.5
現在は取り組んでおらず、 今後もし取り組む予定はない	43.4	35.4	▲ 8.0

図表 12 働き方改革やワーク・ライフ・バランスの取組状況（非製造業）

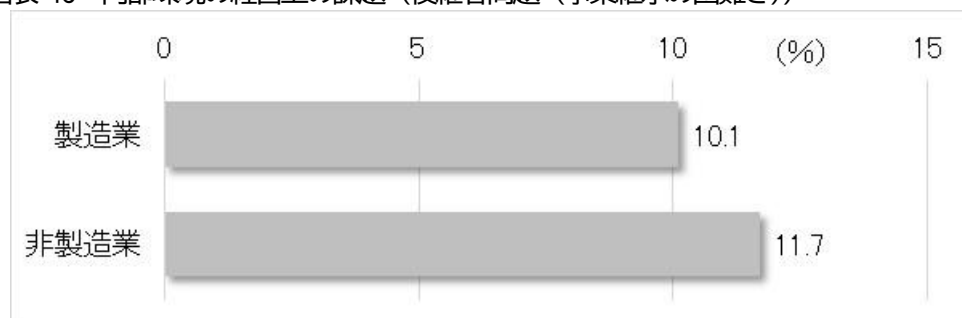
（単位：％）

	前回調査 (2020年)	今回調査 (2024年)	前回調査比 (ポイント)
すでに取り組んでいる	24.2	38.6	14.4
現在は取り組んでいないが、 今後取組を予定・検討している	18.9	14.6	▲ 4.3
現在取り組んでおらず、 今後もし取り組む予定はない	56.9	46.9	▲ 10.0

（共通）企業の1割程度が「後継者問題」を経営課題と認識

商工業事業者の1割程度が「後継者問題（事業継承の困難さ）」を経営課題にあげており、その約5割は、後継者がおらず廃業予定としていることから、速やかな事業承継に対する支援が求められている。

図表 13 内部環境の経営上の課題（後継者問題（事業継承の困難さ））



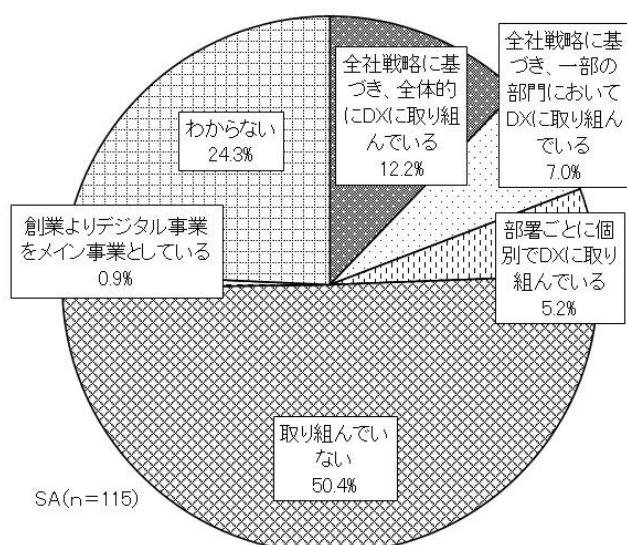
図表 14 「後継者難」を経営課題にあげた企業の後継者の状況

(単位: %)

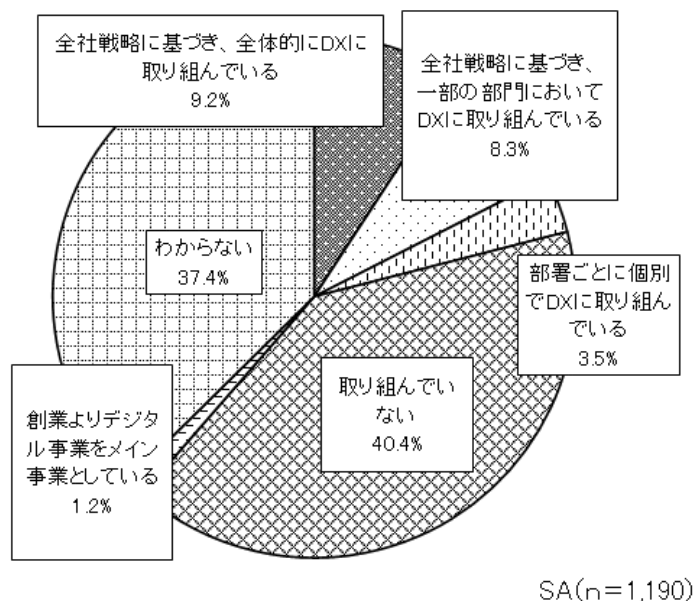
	サンプル数 (n)	後継者が いる	いないので 探している	いないので 廃業予定	今のところ 必要ない (経営者が 若いなど)	その他
製造業	11	18.2	27.3	45.5	9.1	0.0
非製造業	130	7.7	33.8	45.4	6.9	6.2

(共通) DXに取り組んでいる企業は2割程度

図表 15 DXの取組状況 (製造業)

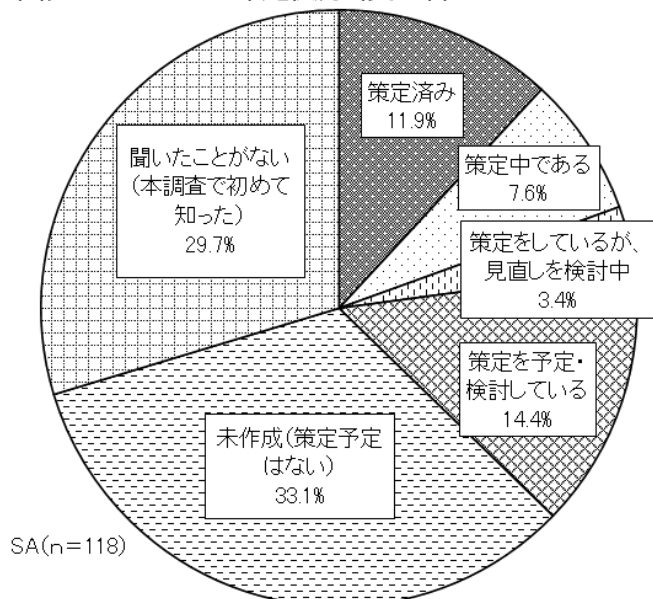


図表 16 DXの取組状況 (非製造業)

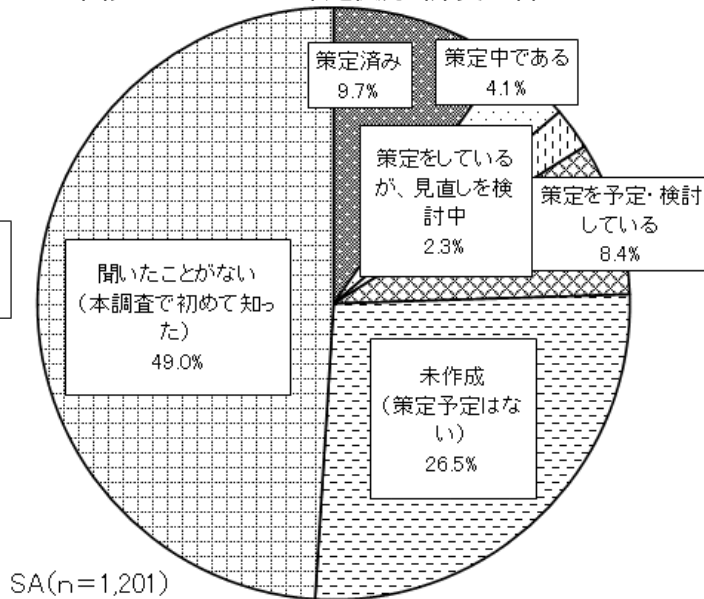


(共通) BCP策定済みの企業は1割程度

図表 17 BCPの策定状況 (製造業)



図表 18 BCPの策定状況 (非製造業)



(商業) 商店街の2極化が進行(商店街数が10年で1割減少)

- ・ 船橋市の商店街は、2014年の60団体から2024年には53団体(2014年比▲11.7%)に減少している。その結果、商店街を利用しない(できない)市民は約7割にのぼっている。一方、高齢化やコロナ禍の影響などから、商店街を週1回以上利用している市民は2014年の15.5%から2024年には20.5%に増加した。
- ・ 商店街が持続可能なまちづくりに取り組むことは、商店街および市民ともに肯定的な意見が多く、商店街の市民のウェルビーイング(地域幸福度)を高めるような取組みを支援する必要がある。

図表 19 商店街の利用頻度(前回調査比)

	週1回以上利用する			月に2～3回			利用しない		
	前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回 調査比 (ポイント)	前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回 調査比 (ポイント)	前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回 調査比 (ポイント)
商店街	15.5	20.5	5.0	12.8	14.0	1.2	71.8	65.5	▲ 6.3

図表 20 商店街が持続可能なまちづくりに向けた活動(SDGs)に貢献することの是非

(単位: %)

	回答数 (件)	取り組むべき	取り組むべき 積極的に	取り組むべき 多少は	どちらとも いえない	取り組む 必要はない	あまり 必要はない 取り組む	全く 必要はない 取り組む
地域の防犯・防災への体制づくり	29	82.7	37.9	44.8	17.2	0.0	0.0	0.0
地域コミュニティとしての役割	29	75.9	27.6	48.3	20.7	3.4	3.4	0.0
高齢者の活動の場の提供	29	65.5	17.2	48.3	27.6	6.9	6.9	0.0
バリアフリー等への対応	29	65.5	13.8	51.7	31.0	3.4	3.4	0.0
省エネ等の環境への取り組み	29	65.5	20.7	44.8	31.0	3.4	3.4	0.0
子育て世代への支援	29	58.6	17.2	41.4	34.5	6.9	6.9	0.0
地域のリーダー育成・子供の教育の場	29	55.1	17.2	37.9	41.4	3.4	3.4	0.0
農業・漁業等、地域産業との連携	29	37.9	6.9	31.0	51.7	10.3	6.9	3.4

※「取り組むべき」の降順で掲載。

図表 21 商店街の持続可能なまちづくりに向けた活動(市民アンケート調査)

(単位: %)

	求める	とても 求める	多少 求める	どちらとも いえない	求めない	あまり 求めない	全く 求めない
全体(平均)	40.4	9.6	30.8	43.2	16.4	9.5	6.9
地域コミュニティとしての役割	37.4	6.7	30.7	43.1	19.4	12.1	7.3
子育て世代への支援	36.2	6.6	29.6	44.8	18.9	10.3	8.6
高齢者の活動の場の提供	40.5	8.2	32.3	43.2	16.3	9.6	6.7
バリアフリー等への対応	44.0	10.1	33.9	41.1	14.8	8.4	6.4
地域の防犯・防災への体制づくり	52.2	17.9	34.3	36.6	11.3	5.9	5.4
省エネ等の環境への取り組み	39.8	10.1	29.7	44.6	15.6	9.1	6.5
農業・漁業等、地域産業との連携	41.0	9.9	31.1	44.2	14.8	8.9	5.9
地域のリーダー育成・子供の教育の場	31.9	7.1	24.8	48.2	19.9	11.8	8.1

各SA(n=1,400)

- (注) 1. 網掛けは各属性で数値が高い項目3つ。
2. 全体は、各項目の回答率の平均値を掲載。

【参考】商店街の利用状況とウェルビーイングの相関

商店街を「利用する」人のウェルビーイングは全ての項目で、商店街を「利用しない」人を上回っており、商店街が近隣のまちに暮らす人々のウェルビーイングの向上に寄与している。

図表 22 商店街の利用状況とウェルビーイング（千葉県民）

（単位：点）

		幸福度	生活満足度	町内の幸福度	周りも楽しい	5年後の幸福度
千葉県		5.8	5.8	5.7	3.1	5.7
商店街の利用の有無	商店街を利用している(a)	6.4	6.2	6.1	3.3	6.1
	商店街を利用していない(b)	5.6	5.7	5.6	3.0	5.5
	差異(a-b)	0.8	0.6	0.5	0.3	0.6

（出所）公益社団法人「ひまわりベンチャー育成基金」時代の変化に対応した商店街の活性化」

（商業）商店主の高齢化に伴い商店街活動が衰退傾向

- ・ 商店街の2024年の景況感（DI）は、▲46.5と低水準で横ばい推移している。その理由は、「経営者が高齢化している個店が多いため」が最多であった。
- ・ 商店街の今後の活性化の方向性は、「個店が魅力的な店舗づくりにより消費者のファンを増やす」が最多となっており、商店街支援に加えて個店への支援ニーズが強まっている。

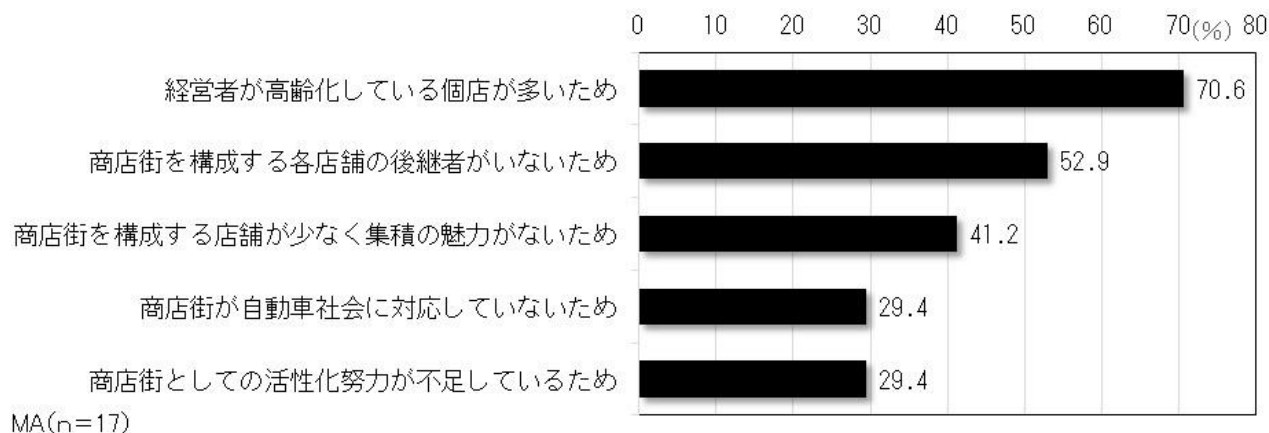
図表 23 商店街活動の動向

〈単位：ポイント〉

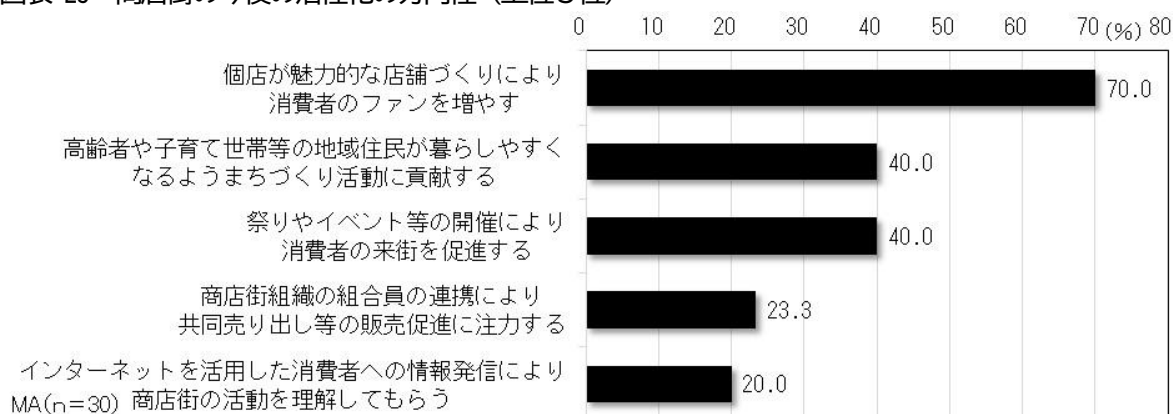
	前回調査 (2014年) DI	今回調査 (2024年) DI	前回調査 と比較した 傾向
景況感	▲ 50.0	▲ 46.5	横ばい
商店街活動	▲ 20.0	▲ 31.3	悪化

※DI＝「増えた(盛ん、活気)」の回答割合-「減った(低調、衰退)」の回答割合

図表 24 景況感について衰退してきた理由（上位5位）



図表 25 商店街の今後の活性化の方向性（上位5位）



(工業) 都市化の進展を映じて工場等の操業環境が悪化

- ・ 新船橋駅周辺が含まれる山手地区は人口流入が顕著であり、工場等の操業環境が悪化している。また、住・工混在化を経営課題としてあげている企業は本町地域や前原地域で多くなっている。
- ・ 製造業の事業所の4分の1は、今後、「新設・増設・移転予定あり」と回答している。これらの事業所は、操業環境の悪化や産業用地の不足などから市外へ流出するリスクがあるため、新たな産業用地の開発を検討する必要がある。

図表 26 工業用途地域を含む町丁の人口増減（単位：人、%）

地域	平成26年人口	令和6年人口	増減率	増減数
山手	19,221	22,981	19.6	3,760
海神・南海神	10,254	10,722	4.6	468
北船橋(藤原)	6,753	7,112	5.3	359
習志野台	4,966	4,615	▲ 7.1	▲ 351
南習志野工業団地	3,422	3,206	▲ 6.3	▲ 216
前原西	4,910	5,113	4.1	203
宮本	1,276	1,956	53.3	680
ハイテクパーク	2,154	1,901	▲ 11.7	▲ 253
臨海工業地区	4,809	4,852	0.9	43
小計(35町丁)	57,765	62,458	8.1	4,693
船橋市合計	620,389	648,594	4.5	28,205

（出所）千葉県「千葉県年齢別・町丁字別人口」

図表 27 外部環境の経営上の課題（住・工混在地域）【地域別】

（単位：%）

	回答数 (件)	住・ 工混在 化
全体	119	6.8
地域別		
湊町地域	39	0.0
本町地域	12	16.7
葛飾地域	3	0.0
法典地域	11	9.1
夏見地域	6	0.0
前原地域	12	16.7
習志野台地域	8	12.5
新高根・芝山地域	2	0.0
八木が谷地域	9	11.1
豊富地域	15	6.7

図表 28 新設・増設・移転予定の有無（製造業）

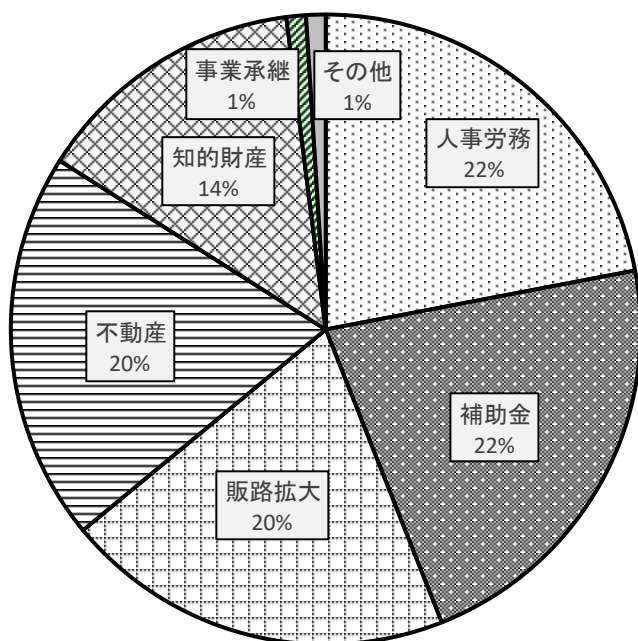
（単位：％）

新設等の予定（計画・検討・可能性）あり	25.9
新設・増設・移転予定に関する具体的な計画がある	6.7
新設・増設・移転を検討している	2.5
将来的には新設・増設・移転する可能性がある	16.7
閉鎖を予定・検討している	4.2
新設・増設・移転の予定はない	60.8
わからない	9.2

（工業）ベンチャープラザ船橋の起業・創業の継続的な支援

- ・ベンチャープラザ船橋の支援内容は、人事労務や補助金、販路拡大など多岐にわたる。
- ・同施設が船橋市における起業・創業を支えるなど、船橋市はスタートアップ等支援のポテンシャルがある。

図表 29 ベンチャープラザ船橋の支援内容



（出所）ベンチャープラザ船橋へのヒアリングをもとに（株）ちばぎん総合研究所が作成。

(観光) 個性的かつ集客力が高い地域資源

- ・ 市内の施設・イベント・グルメ等の経験（認知度）が2割を超えているのは18施設等となっている。船橋競馬場や中山競馬場、アンデルセン公園の市外住民の経験度は、前回調査（2014年）比20ポイント前後上昇している。
- ・ 図表31では、観光産業の課題として「観光客を呼び込める魅力的な観光施設・インフラが乏しい」が最も多くなっており、継続的に地域資源を発掘・ブラッシュアップし、船橋市の観光にとってタイムリーな情報発信が不可欠といえる。

図表 30 市内の施設・イベント・グルメ等の経験（認知度）（前回調査との比較）【市外住民アンケート調査】

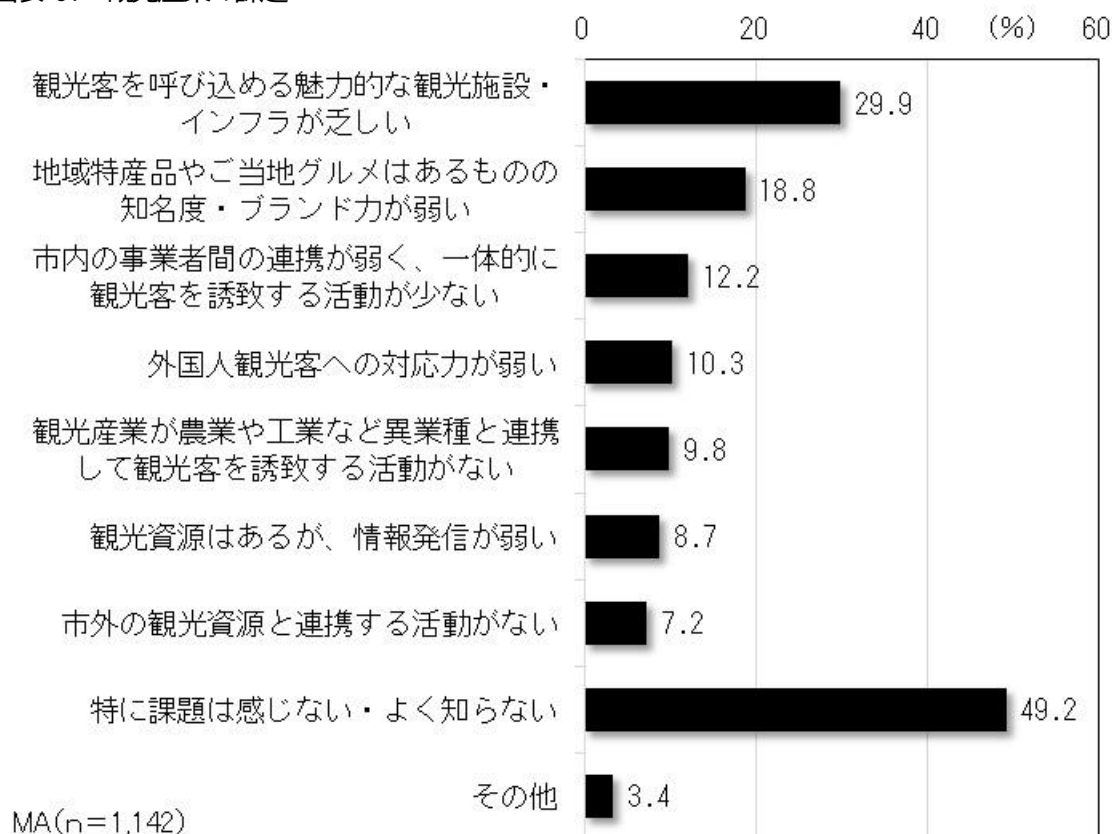
		前回調査 (2014年) (%)	今回調査 (2024年) (%)	前回調査比 (ポイント)
施設	船橋競馬場	9.5	31.6	22.1
	中山競馬場	21.6	42.0	20.4
	アンデルセン公園	21.7	38.7	17.0
	サッポロビール 千葉ビール園	11.5	28.1	16.6
	二宮神社(下総三山の七年祭り)	4.9	21.4	16.5
	ふなばし三番瀬海浜公園	13.3	29.7	16.4
	意富比神社(船橋大神宮)	13.1	26.4	13.3
	IKEA Tokyo-Bay	32.5	44.6	12.1
	ららぽーとTOKYO-BAY	51.6	59.1	7.5
	ららテラスTOKYO-BAY		29.8	－
	イオンモール船橋		36.6	－
	LaLa arena TOKYO-BAY		22.5	－
	船橋市地方卸売市場		24.7	－
	船橋市立医療センター		23.1	－
	船橋オートレース場	4.9		－
グルメ	船橋ソースラーメン	2.5	16.1	13.6
	船橋バクダン		14.7	－
	小松菜ハイボール		15.5	－
	船橋市産の梨		27.4	－
	船橋市産の小松菜		20.6	－
	船橋にんじん		19.3	－
	すずきめし	0.6		－
	ふなばチヂミ	0.5		－
その他	船橋港親水公園花火大会	4.4	18.8	14.4
	ふなばし市民まつり	4.9	19	14.1
	千葉ジェッツふなばし(試合・イベント等)		22.3	－
	目利き番頭 船えもん ※	12.8	13.7	0.9
	ふなっしー ※	92.6	79.1	▲ 13.5

- (注) 1. 施設、グルメ、その他毎に前回調査比プラスの降順で掲載。
2. 網掛けは前回調査比で数値が高いもの3つ。
3. ※は、認知度を掲載。

(観光) 観光資源(地域特産品等)のブランド力が低い

船橋市の観光産業の課題は、「観光客を呼び込める魅力的な観光施設・インフラが乏しい」が29.9%で最も多く、「地域特産品やご当地グルメはあるものの知名度・ブランド力が弱い(18.8%)」が続いている。

図表 31 観光産業の課題



(観光) 南船橋駅周辺の再開発に伴うまちの魅力向上

南船橋駅の周辺には、ショッピング施設やアリーナ、競馬場、公園、直売所、自然など多種多様な地域資源が集積している。

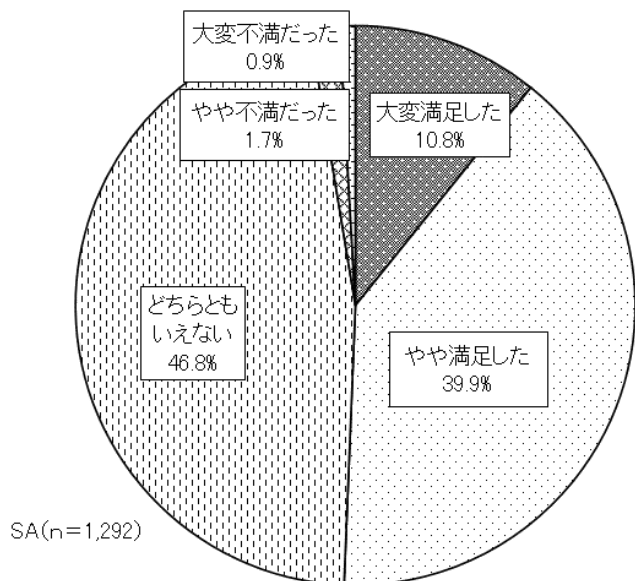
図表 32 南船橋駅周辺の主なインフラ

ショッピング施設	ららぽーとTOKYO-BAY
	ららテラスTOKYO-BAY
	ビビット南船橋
	イケア
アリーナ	LaLa arena TOKYO-BAY
競馬場	船橋競馬場
公園	ふなっしーパーク
	船橋港親水公園
直売所	三番瀬みなとや(船橋市漁業協同組合)
自然	谷津干潟

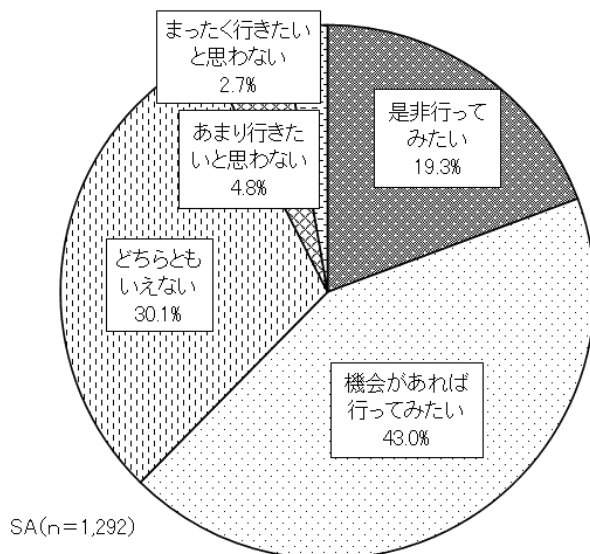
(観光) 来訪者の満足度および再訪意欲が高い

船橋市を訪問した市外住民の満足度は50.7%、再訪意向がある人の割合は、62.3%となっている。

図表 33 船橋市を訪問した際の満足度（市外住民）



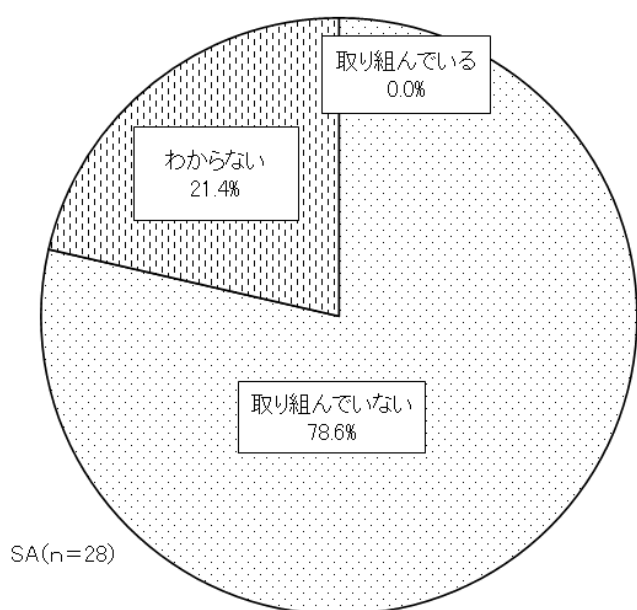
図表 34 再訪意向（市外住民）



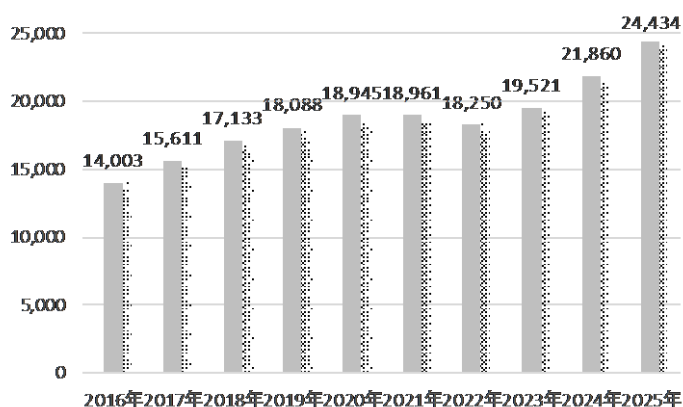
(観光) 商店街の約8割はインバウンドに未対応

- ・ 外国人来街客の取り込みに対応した商店街の取組状況をみると、約8割が「取り組んでいない」、約2割が「わからない」となっている。
- ・ 船橋市の外国人人口は、2025年には24,434人（2016年比+74.5%）とコロナ禍後は加速度的に増加している。船橋市の外国人人口は、県内では千葉市に次ぐ第2位となっており、酒々井町の人口（約2万人）を上回る規模となっている。
- ・ 市内在住の外国人の消費マーケットの取り込みに向けた活動は、長い目で見ればインバウンドの誘致にもつながる可能性が高い。

図表 35 商店街の外国人来街客の取り込みに対応した取組状況



図表 36 船橋市の外国人人口の推移



(出所) 船橋市「住民基本台帳人口」